

## 勤務医部会だより

### 院内歯科を持たない病院の 「医科歯科連携」について



幹事 長谷川真司

名古屋記念病院はまもなく創立30周年を迎えます。この30年で、設立当初とは異なった機能も持つようになりました。現在は、急性期医療を提供する病院として、地域医療支援病院、災害拠点病院などとなっております。

そのなかで、がん医療（特に化学療法領域）における患者支援体制の一環として、地区歯科医師会との連携について、その取り組みについて紹介します。

当院は愛知県がん診療拠点病院の指定を受けていますが、歯科・口腔外科がありません。がん化学療法を受ける患者では、口腔内合併症がしばしばみられ、それが遷延・重症化すると、化学療法の延期・中止や摂食困難、致命的感染症に至る可能性もあります。そのため、化学療法開始前からの口腔管理が必要ですが、一般の歯科医院では抗がん剤治療中の患者が歯科的治療を受けられないことがあり、紹介先の確保とともに、地域の歯科医師会ならびに歯科診療所との連携強化が必要でした。

2013年4月天白区歯科医師会員を対象に、当院との連携意思を調査したところ、多くの歯科診療所が当院との連携に関心を持っていることがわかりました。まず「名古屋記念病院におけるがん治療と口腔管理の現状と課題」「がん治療を中断・中止させないための口腔管理の考え方」の勉強会を開催、次にがん治療および化学療法副作用の医科的知識と口腔管理の歯科的知識の研修などいかに地域で口腔ケアの質を上げるかの協議を続け、相互理解と診療レベル向上のためレベルⅠからⅢの3回の講習会を開催し、全ての講習会に参加した歯科医師には名古屋記念病院から認定連携登録証を発行し、病院のHPに認定登録歯科医院として紹介する事としました。

その後対応できる歯科処置の内容、バリアフリー・階段の有無など施設状況に関する調査も行ない歯科の施設状況に関するリスト化も行いました。患者

自身が連携歯科医院を選択するため、これらの情報は大変参考になりましたが、患者はかかりつけまたは自宅近くの歯科医院を希望することが多く、登録歯科医院を増やす必要があり、当院の近隣地区である名東区・緑区・愛豊（日進市・豊明市・東郷町）歯科医師会にも連携を呼びかけ、連携講習会を行いました。その結果2014年12月の時点で114歯科医院の連携登録を得ることができました。また同時に院内歯科がない名古屋市緑区にある緑市民病院と日進市にある愛知国際病院にも本方式に賛同いただき連携準備を進めています。2014年4月の診療報酬の改定では、院内歯科がない病院の診療情報料には歯科医療機関連携加算（100点）が加えられ、さらに周術期口腔機能管理後手術加算（100点）、周術期口腔機能管理（Ⅰ）及び（Ⅱ）の加点が盛り込まれたことは、この取り組み（医科歯科連携）に追い風でした。

2013年10月から2014年12月までに70件を超える周術期医科歯科連携が実施された結果、口内炎の軽症化をもたらし、化学療法の遂行に良い効果がでています。

がん患者を対象にした周術期口腔機能管理で培った医科歯科連携のノウハウは、がんだけではなく、誤嚥性肺炎、骨粗鬆症、糖尿病さらには在宅医療などの分野においても活用することができます。医科歯科連携のほか調剤薬局と情報交換を密にする病薬連携もがん患者を中心に始めています。このほか訪問看護師など地域の医療スペシャリストと連携し、各々の知識・スキルおよび特性を発揮できる全員参加型の医療連携を実現させることで、超高齢化社会を迎えるわが国における地域の医療資源・人材の有効活用のモデルを目指します。

引き続き各方面と協力し連携を充実させ、院内においては働き甲斐がありかつ働きやすい病院となるよう努力します。今後ともよろしくお願ひします。



病院外観

名古屋記念病院天白  
歯科医師会連携講習  
会・意見交換会



(名古屋記念病院)